

自分の命 自分で守る① 【交通安全教室】

好天に恵まれた12日(木)、交通安全教室が行われました。全校児童が歩行と自転車乗りに分かれて、路上で実際に歩行・走行をとおしての学習を



左右確認しっかりと

しました。何事にもまじめに、熱心に取り組むことのできる子どもたちなので、多くを学び今後の生活に活かしてくれるだろうと思っています。一方でわたしが思ったより、講師の先生方からのご指導には厳しいものがありました。特に自転車乗りについては、発進前にペダルを踏み込むための準備や、車道側の後方確認の仕方等などについて、まだまだ不十分であるとのことご指摘を受けました。考えて

みれば、当たり前です。自転車も「車」の一員ですが、人間のからだはむき出しですし、すぐバランスを失う不安定さもあります。自分の命を自分で守るためには、確実な安全確認しかありません。子どもたちのために想ったの厳しいご指導をありがたく思います。また、滝澤駐在所長さんのお話では、時速40kmで走る自動車が1秒間に走る「11メートル」を実際に示してくださる場面がありました。たった1秒でこんな距離を迫ってくる怖さを実感させていただきました。

昨年度も書かせていただきました。91名の児童のために、これだけ多くの警察の方や安全協会の皆さんがお越しいただいて安全教室を支えてくださることの意味。麻績の宝の子どもが悲しい交通事故に遭うことのないように、という熱い想いを感じさせていただいています。学校は何としてもお応えできなくてはなりません。ご支援・ご指導ありがとうございました。

自分の命 自分で守る② 【第1回避難訓練】

避難経路を確認し安全に避難できることが、第一回の訓練のめあてです。

わたしは校長室前庭にて、非常階段を降りてくる子どもたちの様子を見ていました。その後、グラウンドに集合して人員確認が済むまで、ひと言も話し声が聞こえることはありませんでした。わたしは今までにいくつもの小学校に勤めましたし、避難訓練もその何倍もの回数を経験していますが、こんなことはありませんでした。たいがいは、どこかで子どもの声がぽろぽろと耳に飛び込んでくるものです。ところが今回、本当にひと言も声がもれてくることはありませんでした。心から、すばらしいと思い、そのことを子どもた

ちにまとめの話の中で伝えました。でも、でも、です。グラウンドを移動していく数名の子どもの表情が緩んで、白い歯が見えてしまいました。真剣に避難する子どもたちの姿に心を打たれていて、だからこそそのことが残念で残念でそのままを、「ここが残念だった」と話してしまいました。他の学校では見たことのないような麻績の子どものすばらしい姿。そのことのみを子どもたちに伝えるにとどめるべきだったのでしょうか。実はしばらくの間、くよくよと後悔していました。でも、思い直しました。こんなすばらしい麻績の子どもであるからこそ、そして、大切な命を守るための学習であるからこそ、妥協してはいけないのではないかと。さらに一步上の子どもの姿を求めてよいのではないかと。校長のひとりごとです。



立場は人を育てる

11日（水）朝は、地区児童会がありました。各地区児童の構成のため役員さんが必ずしも6年生ではない場合があります。心配で様子を見て回りますが、友だちや先生の手助けを受けつつも立派にその責を果たす姿があり安心したりうれしく思ったりしています。



18日（水）の朝は、友だちグループの発足会がありました。発足会の自己紹介ゲームが、順番が後になるほどみんなのことを覚えていて全部つなげて、さらに自分の好きなことも加えて話す、という難しさがあるものでした。低学年の友だちに寄り添って声をかけて助けている高学年の友だちの姿がありました。

リーダーを引き受けることは大変です。しかし、それを経験して、ちょっぴり苦労もすることをおして、

その子どもさんが大いに育つことを目の当たりにします。

高学年になるとそれぞれの立場で、誰もがリーダーを経験できること。これも麻績小学校の素晴らしさの一つであると思い、その育ちを大切に見守りたいと思うのです。